

## 令和2年度ブロックニュース

地区名〔 山形県 〕

昨年度末から今年度始にかけての臨時休業により、学習時間の確保が難しくなりました。各校における教育課程の変更、時数確保のための行事削減、各委員会活動の自粛等、例年にはない厳しい現実があったのは、コロナ感染者がそれほど多くはない本県も同じでした。

知り合いの校長先生方に新聞教育について尋ねてみると、委員会の活動時間が確保できないこと、活動自体が密になること、教員の指導時間が十分に取れないこと等から活動自体を休止した学校、発行部数を減らした学校が数校ありました。

これは大変だと思い、庄内地方にある公立小中学校を対象に学校、学級、PTA新聞の作成状況を確認するアンケートをとりました。例年コンクールに応募してくださる学校は発行回数を減らしながらも作成を続けてくれている状況でした。一方でPTA新聞を中止した学校も数校ありました。

県学校新聞コンクールの開催も危ぶまれました。そこで、県新聞教育担当事務局会を臨時に開催し、文化面でがんばっていることを認めてあげる場を減らすわけにはいかない、今だからこそその新聞の力を発掘、賞賛していきたいとの考えを共有できたので、酒田市会場で行うこととしました。（11月26日 酒田市文化センターにて）

コロナ感染症対策で多くのことを学びました。今後の学校新聞教育の在り方については、来年度以降も継続して考え、新たな発想のもとで持続可能な新聞教育を模索していかなければならないと思います。そのための人材の維持、確保が急務であり、最大の難関となっています。（文責 齋藤 禎行 山形県新聞教育研究協議会長）